実績報告

診療部

- 医局
- 歯科
- 薬剤科
- 放射線科
- 臨床検査科
- 栄養科
- 心理室
- 地域課
- デイケア科
- 作業療法科

診　療　部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、地域課、心理室、デイケア科で構成されている。

平成28年度より、精神科救急病棟が開設し、入院患者、外来患者が増加。それに伴って診療部各科（課）の業務量も増加した。効率的で柔軟な対応が求められた１年であった。

副院長　**川嶋　義章**

【種　別】

精神科

【職員数】

12名（精神科医 9 名　内科医 1 名　事務員 2 名）

＊精神科医 9 名のうち精神保健指定医 8 名、精神保健特定医師 1 名

平成28年度から事務員が新た加わり、医局事務員は 2 名体制となった。

平成28年 3 月より、医局は精神科救急病棟 3 階に移転した。

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。平成28年 4 月より精神科救急病棟を開設し、救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、時間外診療を積極的に行った。

［精神科救急］

平成28年度は、新潟県の精神科救急システムにおいて、月・水・木の夜間のほぼ全て、さらに休日昼間・休日夜間の救急を輪番で担当した。実際には、夜間は平日・休日合わせて年間157日（前年度156件）、休日昼間は年間16日（同16件）を担当した。その中で、電話対応は777件（前年度97件）、診察128件（同83件）、入院55件（同33件）であった。

［クリニック業務］

川嶋副院長、豊岡医長、澁谷医長、熊田医長、橋野医長がとよさかクリニックに出張し、稲月医師と共にクリニックの診療にあたった。

［地域精神保健への協力］

措置鑑定 8 件（前年度12件）、措置入院30件（同22件）、応急入院 2 件（同 0 件）、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行っている。

平成29年度より、新潟市北区において、特定健診にあわせて、もの忘れ検診が開始されることになり、その準備のための作業部会に当院も関わった。

［会議・委員会］

医局連絡会議；基本的に第 1 と第 3 月曜日、午後 4 時半から、30分～ 1 時間で開催している。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて参加する各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題について報告、議論、提案がなされた。

その他、病院の各種会議・委員会には、全体会議；医局医師全員、経営委員会；鈴木理事長・後藤院長・川嶋副院長、医療安全対策委員会・リスクマネジャー委員会；川嶋副院長、院内感染防止対策委員会；後藤院長・鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；橋野医長、医療観察法運営委員会；後藤院長、衛生委員会；後藤院長、薬事委員会；鈴木理事長・後藤院長・川嶋副院長、病院食検討委員会；後藤院長・鈴木理事長、退院支援委員会；後藤院長・児玉医員、業務改善委員会；豊岡医長、未収金対策委員会；鈴木理事長・後藤院長、デイケア科運営委員会；後藤院長が参加した。

【今後の展望】

平成28年度より精神科救急病棟を開設した。医局も救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、ベッドコントロール等に追われる多忙な 1 年であった。今年度も前年度の質・量を落とすことなくこれらの業務を維持し、新潟県北圏域の基幹病院としての役割を果たしていく予定である。

文 責　川嶋　義章

平成28年度、入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	256	259	277	267	266	267	270	274	266	265	276	276	268.3
新入院患者数	41	54	63	43	50	54	53	36	38	53	45	39	569
急性期治療病棟入院者数	32	40	36	28	29	35	37	23	28	37	28	25	378
措置入院者数	2	3	3	4	2	2	2	4	3	1	3	1	30

平成28年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来のみ	12	11	12	9	7	9	6	17	21	16	11	6	137
入院受け入れ	13	7	9	8	7	12	13	7	7	9	10	5	107

平成27年度、入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	269	273	272	265	270	261	259	251	247	255	253	248	260.9
新入院患者数	40	38	34	38	33	37	34	32	39	46	34	39	444
急性期治療病棟入院者数	26	26	24	28	23	24	22	27	30	31	21	33	315
措置入院者数	2	0	1	1	1	1	1	4	3	2	4	2	22

平成27年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来のみ	9	15	16	18	20	11	17	15	5	7	5	4	142
入院受け入れ	6	9	6	6	6	6	3	6	10	7	6	6	77

【部署名】

歯科

【職員数】

7名（歯科医師6：新潟大学医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野より派遣、事務員1名）

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に、以下の歯科診察を行っている。

- 虫歯治療、冠・義歯等の製作
- 歯周病治療及びメインテナンス（定期的な検査、専門的清掃による口腔管理）治療
- 歯科疾患予防検診・処置・口腔ケア
- 特別養護老人ホーム「なぎさの里」への訪問歯科診療

入院患者に関しては、精神科主治医・看護師・病棟看護スタッフらと連携することにより、治療内容やメインテナンスの期間等、患者の状態に合わせた治療を提供している。

なぎさの里への訪問診療についても、看護師及び看護スタッフと連携して、綿密な治療計画のもと、QOLに配慮した口腔ケア・歯科診療を行っている。

デイケア科、福祉事業所（いなほ園）のメンバーを対象に口腔ケアの必要性、予防歯科の大切さについての講演や口腔清掃指導を行っている。

デイケア科において無料歯科検診、ブラッシング指導を実施している。

【今後の展望】

口腔内の衛生状態を良好に保つことは、誤嚥性肺炎の予防など、さまざまな疾患に影響を与えることが報告されている。院内にある歯科という特長・意義をふまえ、歯科疾患の予防や治療にとどまらず、訪問診療や口腔ケアを積極的に行うことで、全身の健康とQOLの向上に貢献する。

文 責　伊藤きみ子

【実　績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療延べ人数	146	158	192	171	177	168	161	174	137	141	163	153

薬剤科

【部署名】

薬剤科

【職員数】

4名（薬剤師3名　事務員1名）

【業務内容】

平成20年11月の外来処方箋の院外完全移行により外来患者の調剤が無くなり、現在薬剤科における主な業務の中心は院内処方箋に基づく調剤と、病棟における薬剤管理指導業務となっている。特に平成25年以降は電子カルテ導入により薬物治療情報が院内において一元化されたため、各部署からの薬剤情報への問い合わせ等も多々ある。その他、心理教育での病棟及び家族会での薬剤啓蒙講義、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、教育委員会等）への参加とチーム医療関連の業務も近年多くなってきている。例年全国規模で行われる精神科における処方調査（精神科臨床薬学研究会により行われる調査）にも参加しており当院での薬物治療の処方状況把握、及び全国との比較を行い、医師にフィードバックしている。それに伴い薬剤科主導での抗精神病薬スイッチングも各職種と連携しながら行っており一定の成果を挙げている。

【今後の展望】

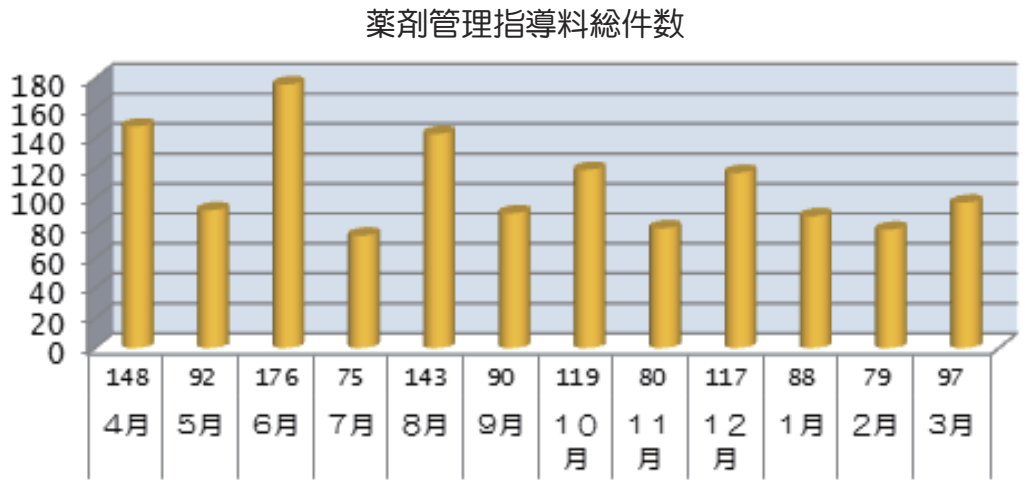
精神科救急病棟の開設により様々な患者の入院が想定される中、薬剤科としてはそれに伴う患者への薬学的関わり（持参薬管理における相互作用チェック、服薬指導等による服薬アドヒアランス向上等）を行うことで、スムーズな治療、退院へと結び付けられるよう各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また新しい取り組みとして今後頓服薬の適正使用を課題に置き、頓服薬使用が多い患者に対し、薬物以外のアプローチが考えられないかを看護等と共に考え取り組んでいきたい。

文 責　川島　伴子

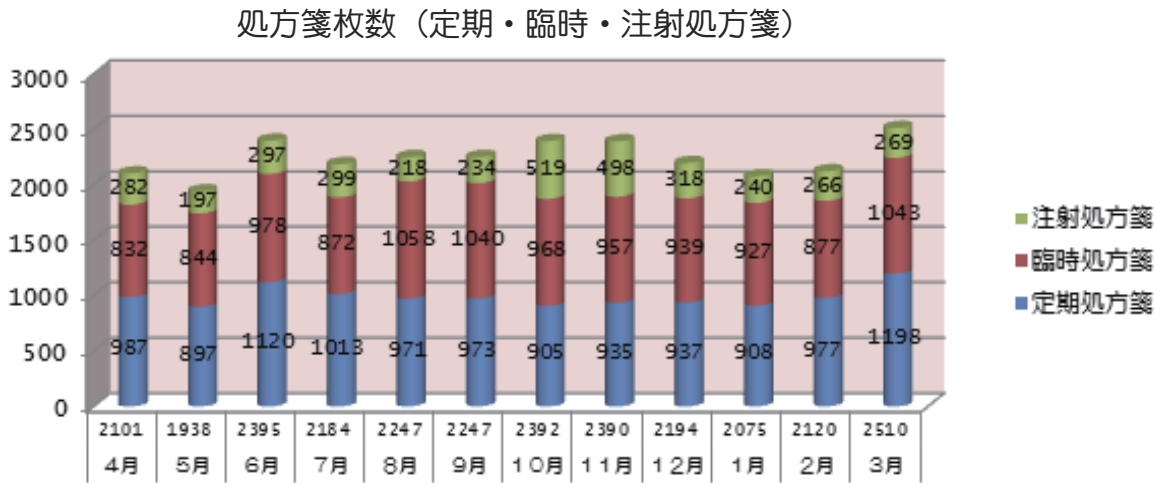
【実　績】

①薬剤管理指導料件数

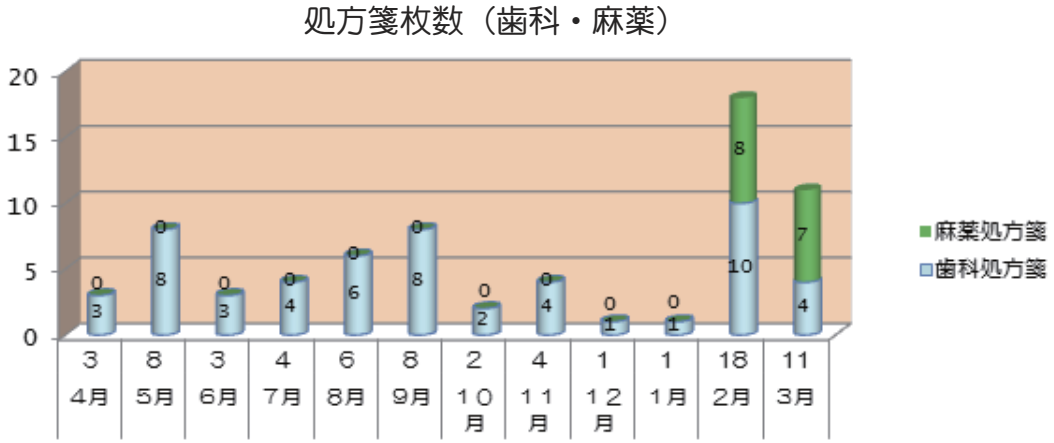
（薬剤管理指導料２・薬剤管理指導料３・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数）



②処方箋枚数（定期・臨時・注射処方箋）



③処方箋枚数（歯科・麻薬処方箋）



放射線科

【部署名】

放射線科

【職員数】

2名（診療放射線技師2名）

【業務内容】

放射線科は、担当医師の指示により精神科救急病棟および一般病棟に新たに入院した患者に胸部単純撮影と頭部CT検査を実施している。他に主治医の指示により、外来、既存入院者にも一般撮影とCT検査を実施している。一般撮影の目的は入院時の胸部単純、経鼻経管栄養補給のために挿入した胃チューブの位置確認、発熱の原因検索、腹痛あるいは腹満状態の原因検索の腹部単純、転倒や打撲に伴う全身骨の骨折等の検索である。頭部領域のCT検査の目的は外来・病棟患者共に精神疾患の要因となりうる頭蓋内病変の検索が殆どであり、半年または1年毎の定期的検査の実施が増加している。他に頭部打撲による頭蓋内疾患の有無について検索がある。頚部領域では数例で甲状腺疾患、喉頭部違和感の精査であり、胸部領域では肺疾患症例に対して詳細な疾病状態の検索が殆どである。腹部領域では腸閉塞の原因検索、不明熱の熱源の検索、腹部臓器（腸管・肝臓・膵臓・腎臓等）疾患の精査である。これらは昨年同様、患者の被ばく線量軽減に努めながら日々の撮影業務を遂行している。

画像データは全てPACS内に電子的に保存し、一般撮影の読影は全てを担当医師が行なっている。CT検査の読影は外部の読影専門機関に依頼し、後日届いた画像診断専門医による読影結果をPACSに電子的ファイルとして保存すると共に、電子カルテ上に所見として転記している。PACS内の画像データは定期的に外付HD内にバックアップを行なっている。

患者が他医療機関に受診した際は、担当医師からの指示により当院での画像データをPDIデータとしてPACSからCD-Rに保存し提供している。また、他医療機関から提供されたCD-R内の画像データをPACSに保存している。

日常業務における医療機器の始業時点検を毎日実施している。さらに定期的な保守点検計画を立案、X線機器は年2回、PACSは年1回実施している。いずれも正常な状態である。医療機器の保守点検と同時に、法令に定められている放射線管理区域境界における漏えいX線線量測定を所定の方法で2回行ない、歯科外来のX線撮影室を含めて、全ての測定場所における漏えいX線は認められていない。

【今後の展望】

高齢な患者が増加している社会情勢において、当院も種々な疾患を患っている高齢者（患者）が外来診療を受け入院している。機器のトラブルを未然に防ぐよう医療安全と検査時の被ばく軽減に努め、患者の疾病等を的確に評価が行えるよう、身体的負担を抑えながら習熟した技術で日々の業務を遂行し、精神科疾患治療の一役を努めていく。

文責　石田　　均

【実　績】

〈画像検査数〉

①一般撮影回数

撮影部位	回数	
	平成27年度	平成28年度
胸部	575	695
胸部：胃チューブ確認	75	122
頚部	2	0
腹部	53	31
全身骨・関節	78	73
総数	778	921

②ＣＴ検査数

検査部位		件数	
		平成27年度	平成28年度
頭部	外来	140	168
	病棟	284	443
胸部	外来	2	3
	病棟	105	73
全腹部		40	41
頭頚部		5	2
上肢		0	1
頚部～骨盤部		2	1
総数		578	732

〈医療機器保守点検および漏えいＸ線量測定〉

医用機器	保守点検実施月日	漏えいＸ線量測定月日
一般撮影装置	平成28年８月４日	平成28年８月22日 平成29年２月６日
全身ＣＴ装置	平成28年8月22日 平成29年２月６日	
ＣＲ機器	—	
ＰＡＣＳ	平成28年11月25日	
歯科撮影装置		平成28年５月23日 平成28年11月７日

・保守契約によりCT装置は２回/年、PACSは１回/年の点検実施

・歯科撮影装置の保守点検は歯科診療室で管理

〈医用画像の入出力〉

・当院→他医療機関：35件

・他医療機関→当院：47件

臨床検査科

【部署名】

臨床検査科

【職員数】

3名（臨床検査技師3名）

【業務内容】

全入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し原則毎月1回の定期採血（肝機能・腎機能・糖脂質・血球算定等）を実施し、身体的変化をフォローしている。また、定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し薬剤治療における適切な治療域管理を行っている。外来受診者においても年1回の採血を原則とし、病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変え、身体的状況の把握や精神薬治療域管理に努めている。

生理検査では主に抗精神病薬副作用のモニタリングとして心電図検査を定期的に行っており、各病棟（急性期・身体合併等）の形態に合わせて検査頻度を設定し、薬剤副作用及び心疾患の早期発見に努めている。脳波検査は医師の指示を受けて個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

職員健診は年2回実施しており、春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として主に採血及び心電図検査を実施している。

その他、主に看護師を対象に検査技師不在時に使用されるPOCTの使用方法についての勉強会を実施している。

【今後の展望】

平成28年度は精神科救急病棟が開設し、地域における当院の役割が大きく変わった。それに伴い外来患者が増加。新規入院患者数も増加し回転率の向上に合わせて検査件数も増えている。また精神症状のある方だけでなく身体合併症を抱える多種多様な病態の患者も増加し、検査に対する必要性が増していると感じられる。それらを踏まえ、更なる病院の機能強化と今後の医療業界の進歩に合わせる為、絶えず新しい情報を収集し、検査科としての患者サービスの向上と将来性のあるシステム作りを行い、臨床に貢献していきたい。

文責　**村木　憲一**

【実　績】

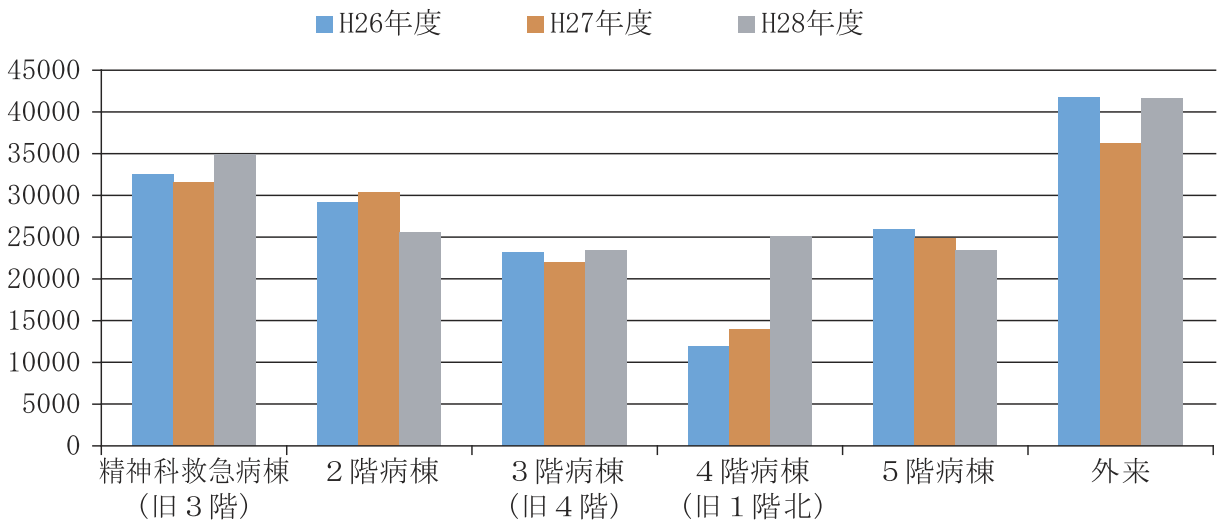
検体検査実施実績一覧

	平成27年度		平成28年度
1階北病棟	13,949項目（内TDM121件）	4階病棟（旧1階北病棟）	25,058項目（内TDM139件）
2階病棟	30,375項目（内TDM163件）	2階病棟	25,605項目（内TDM174件）
3階病棟	31,538項目（内TDM193件）	精神科救急病棟（旧3階病棟）	34,930項目（内TDM127件）
4階病棟	22,021項目（内TDM250件）	3階病棟（旧4階病棟）	23,400項目（内TDM296件）
5階病棟	24,797項目（内TDM207件）	5階病棟	23,458項目（内TDM236件）
外来	36,261項目（内TDM328件）	外来	41,677項目（内TDM349件）
職員健診	3,804項目	職員検診	4,079項目
合計	162,745項目（内TDM1262件）	合計	178,207項目（内TDM1321件）

H28年度生理検査実施実績一覧

	心電図検査	脳波検査
精神科救急病棟	339件	6件
2階病棟	206件	0件
3階病棟	157件	1件
4階病棟	137件	0件
5階病棟	133件	1件
外来	596件	5件
職員健診	128件	
合計	1696件	13件

検体検査実績



栄養科

【部署名】

栄養科

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い適切であるか評価している。毎月BMIを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低アルブミン値、肥満の場合、病棟や患者名、前月のBMIを記載し、低栄養患者と肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減少した患者の一覧表も月ごとに栄養科で作成している。毎月のNST委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はNST委員会の参考資料として使われ、多職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っており、心理教育のなかで栄養に関する集団教育を実施している。作業療法の調理実習では、衛生指導に加え調理法や栄養成分に関する説明をし、デイケアでは生活習慣を予防する内容等の講義を行っている。また、毎月「みなみはま栄養たより」を作成し、健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立を作成している。嗜好調査や病院食検討委員会で挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。年間12回ランチビュッフェを行い、食事を通して患者の選択が広がるよう立案している。昼食時に病棟訪問を行い、患者の摂食状況を確認している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設整備管理のほか、配膳前の確認作業を委託スタッフと一緒に行っている。

【今後の展望】

栄養指導件数の増加、入院・外来患者を対象とした集団栄養指導や調理実習を実施し、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、摂食障害や高齢者を対象としたハーフ食や嚥下訓練食の導入を検討し、患者の病態・症状にあわせた食種の設定をしていきたい。

文責　吉川　　萌

【実　績】

(1)　提供食事数

延食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入　院	22,022	22,904	23,689	23,326	23,518	22,947	23,965	23,641	23,653	23,797	22,342	24,743
ﾃﾞｲｹｱ他	848	804	952	947	960	919	952	901	919	873	828	977

(2)　栄養指導件数（入院・外来含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件　数	83	80	80	69	93	89	93	96	85	92	88	72

【部署名】
心理室

【職員数】
6 名（臨床心理士 6 名）

【業務内容】
外来・入院患者を対象に心理検査や心理面接（カウンセリング）、また患者家族を対象とした心理教育や相談会を行っている。その他、提携企業へのメンタルヘルス研修や行政と連携した地域での家族会を実施している。

心理検査は質問紙や投影法といった検査用具を用いて、患者の病態把握や病状理解、性格傾向などを把握し、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接（カウンセリング）ではアセスメントをもとに精神分析的心理療法や認知行動療法、家族療法など患者の治療に有用な心理療法を用い、困っている生活上の問題を自身でコントロールできるよう支援、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促し、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

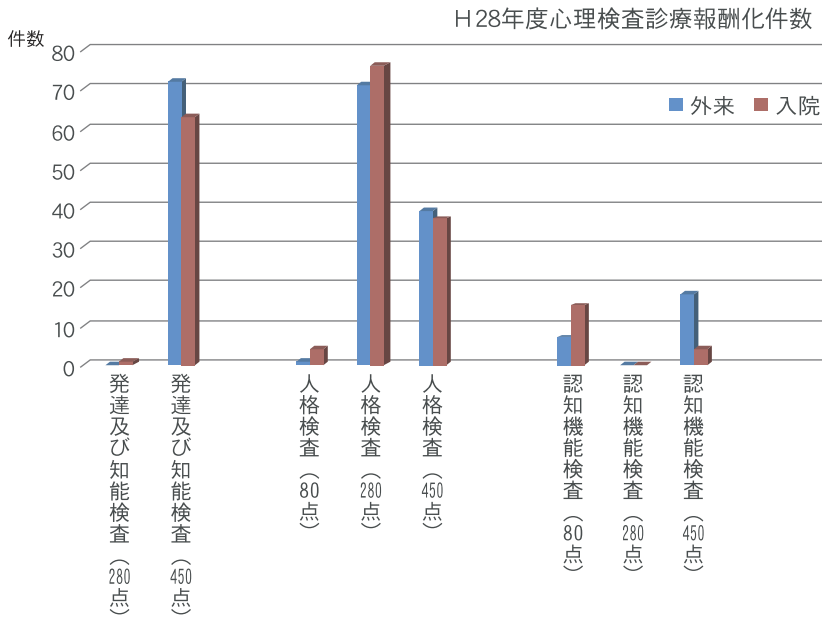
患者家族への心理教育については、病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワークを企画し、多職種スタッフと共に実施している。

その他、企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献にも協力している。

【今後の展望】
今年度、精神科救急病棟が開設し、多様な疾患や精神的症状をもつ患者の検査やカウンセリングの依頼が多くあった。特に発達障害圏や一過性のストレス性疾患など、薬物治療以外の治療が必要な患者のニーズの高さが感じられ、私たちの仕事が非常に求められて来ていることを実感した。

今年度は集団での認知行動療法や摂食障害のグループ治療支援を行い、同時にこれまでのように家族や行政等の社会資源とも連携し、患者を取り巻く環境をシステムとして考えた治療支援と体制を強化していきたい。

文 責　中川甚一郎



地域課

【部署名】

地域課

【職員数】

21名（看護師10名　准看護師１名　精神保健福祉士10名）

【業務内容】

- 外来診療補助
- 検査介助
- 問診
- 点滴、注射処置
- 外来予約変更窓口
- 外来患者電話相談対応
- 夜間休日救急対応窓口
- 精神科訪問看護
- 相談および連携業務
- 各種プログラム協力
- 各種調査、アンケート協力
- 外部会議出席
- 共同住居管理

【今後の展望】

〈外　来〉

1．病棟との入院時カンファレンスを実施し、連携強化をはかる。

2．未受診者リストを作成し、適宜必要な働きかけが行える体制を整備する。またすべての外来患者の状況把握が行えるよう努めていく。

〈精神科訪問看護〉

1．利用者の意向に沿った訪問内容と支援の提供が出来るようにスタッフ全員が質の高い訪問看護サービスを提供できることを目指す。利用者情報を担当PSWのみに頼らず、担当訪問看護者を明示し責任を持って支援に取り組む体制をつくる。退院時（訪問再開時）にも導入チェックリストを用い、支援内容を明確にしていく。

2．訪問看護件数を維持する。事故なく安全に配慮した訪問タイムスケジュール管理を行い、必要な方へ時間の延長の配慮ができる体制づくりを継続する。また利用者の都合に対応できるようスケジュール変更可能体制を継続する。

3．外来、主治医、デイケア、地域関係機関との連携強化と、緊急訪問が効果的に行われる体制づくりの継続。

4．訪問看護ケア項目の内容を明確化し、継続した看護が実施できる方法や記載方法を検討する。（退院前訪問から継続したツールやシート、評価尺度を用いることで、地域生活移行後に生じた問題から支援を修正、追加した事項を明確にしていくシステムづくり）またデイケアとの定期会議も活用し、協働して支援が検討できる体制づくりを実施していく。

〈相　談〉

1．入院時インテークからリストを作成し、退院後のフォロー体制を整える。

2．退院前または初回外来受診時に担当が面談できる体制をつくる。

3．入院相談時からスクリーニングが地域課内の専門職の立場から検討できる体制をつくる。
認知症相談ケース担当制も継続する。

4．精神科救急病棟の担当PSWとの連携強化を進める。早期に地域課担当PSWを割り振り、スムーズな引継ぎを行い、地域移行の体制を早期から準備する。

文 責　**柴田　実子**

【実　績】

1．新規患者数（平成28年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男　性	18	21	27	13	21	13	24	17	14	22	18	15	223
女　性	26	26	25	28	16	35	27	26	20	22	19	18	288
合　計	44	47	52	41	37	48	51	43	34	44	37	33	511

月平均42.6人　　前年合計より＋122件

2．外来患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
H27年度	1,997 95.1	1,656 92.0	1,895 86.1	1,991 90.5	1,887 89.9	1,923 101.2	1,979 94.2	1,868 98.3	1,934 96.7	1,685 88.7	1,805 90.3	2,057 93.5	22,677
H28年度	1,813 90.7	1,839 96.8	2,080 94.5	2,001 100.1	2,158 98.1	2,022 101.1	2,052 102.6	2,158 107.9	2,059 103.0	1,917 100.9	1,960 98.0	2,268 103.1	24,327

下段は月の平均人数　　前年合計より＋1650件

3．入院患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H27年度	40	38	34	38	33	37	34	32	39	46	34	39	444
H28年度	41	54	63	43	50	54	53	36	38	53	45	39	569

前年合計より＋125件

4．とよさかクリニック患者数の動向

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
H27年度	522 24.9	475 26.4	527 24.0	559 26.6	488 24.4	553 29.1	543 25.9	495 26.1	528 26.4	491 25.0	490 24.5	587 28.0	6,258
H28年度	532 26.6	491 25.8	523 23.8	515 25.8	546 26.0	534 26.7	479 25.2	532 26.6	519 27.3	473 24.9	477 23.9	545 24.8	6,166

下段は月の平均人数　前年合計より－92件

5．精神科訪問看護件数（年次推移）

年度	年間件数（件）	新規利用者（名）	1日平均（名）	備　考
22	2,567	19	12.2	総合支援室 完全3チーム制
23	2,598	17	10.6	
24	2,932	23	11.8	
25	3,176	32	13	
26	2,874	28	11.7	
27	2,510	28	10.2	地域課（外来・クリニック加わる）として開始
28	3,194	36	13.0	

6．平成28年度　精神科訪問看護業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
延べ件数	226	240	271	267	260	238	253	283	299	282	279	296	3,194
稼働日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	20	20	22	245
1日平均	11.3	12.6	12.3	13.4	11.8	11.9	12.7	14.2	15.0	14.0	14.0	13.4	13.0
新規者数	4	2	3	5	1	3	3	3	2	6	5	1	38
終了者数	0	1	1	1	2	4	2	1	0	6	3	1	22
登録者数	142	143	145	149	148	147	148	150	152	152	154	154	—

7．精神保健福祉士業務実績（救急病棟精神保健福祉士を含む）

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療援助		340	505	521	430	473	431	554	472	473	456	406	385	5,446 (+2,401)
経済問題援助		46	40	31	30	36	42	23	21	49	48	50	57	473 (−55)
背景・要因把握		94	111	114	83	89	110	120	112	99	113	76	100	1,221 (+377)
治療・療養上の援助		123	121	178	179	184	146	146	120	180	156	180	143	1,856 (+297)
社会・家庭生活上の援助		177	179	200	190	192	166	173	213	165	174	199	136	2,164 (+622)
制度利用援助		139	151	215	188	251	163	184	176	125	213	199	159	2,163 (+623)
退院・社会参加への援助		209	168	183	160	209	136	147	188	179	174	165	200	2,118 (+468)
アフターケア・訪問看護		251	221	232	277	308	213	183	221	228	269	202	246	2,851 (+586)
その他		52	81	91	61	95	83	73	92	108	91	89	81	997 (+513)
援助方法	面接	501	477	513	465	507	412	398	420	438	482	463	403	5,479 (+983)
	院内調整	133	272	255	194	254	211	237	215	246	225	190	174	2,606 (+1,026)
	電話文書	724	809	947	833	948	778	891	916	876	924	837	834	10,317 (+4,155)
	院外訪問	73	60	50	106	129	89	77	66	78	84	76	96	984 (−232)
総数		1,431	1,618	1,765	1,598	1,838	1,490	1,603	1,617	1,638	1,715	1,566	1,507	19,386 (+5,932)

各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類

合計欄括弧内は対前年度比較数

8．精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度（年）	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
延べ件数	8,123	6,767	8,650	11,171	16,781	14,934	15,168	13,454	19,386
月 平 均	676.9	563.9	720.8	930.9	1118.7	1244.5	1264.0	1121.1	1615.5

9．平成28年度　共同住居入居者数

（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
金権家（定員13）	11	11	11	12	11	11	11	11	11	11	11	11
吉田家（定員12）	9	9	10	10	10	10	10	12	12	12	12	12

デイケア科

【部署名】

デイケア科

【職員数】

8名（看護師2名　精神保健福祉士4名　作業療法士2名）

【業務内容】

当デイケアに通所してくる当事者（以下メンバー）に対し、個々の目的達成に向けて様々な活動を提供している。集団プログラムではピアサポーター育成、学習講座、就労支援、SST、認知行動療法、スポーツ、園芸、創作、調理、音楽活動、文化活動、メンバーミーティングなどを実施。

メンバーミーティングでは全員から意見を出してもらうために、小グループに分かれ、イベント企画の立案やプログラム・設備の要望、苦情などの意見交換をし、デイケア運営に反映させている。一昨年度から開始したピアサポーター育成では、デイケア案内・WRAP（元気回復行動プラン）南浜バージョンのファシリテーター、板書・研修会等での当事者発表を行っている。学習講座では他部署のスタッフや業者、地域のスタッフと連携し、必要な最新情報をタイムリーに提供している。個人プログラムではパソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物などメンバーのニーズに沿って実施し、まだ集団を苦手とするメンバーにも対応できるようにしている。

また、3ヶ月に1度はメンバーと担当スタッフで面談をし、何ができて、何ができなかったかなどの振り返りを行いながら目標の再設定を行い、デイケアに通う目的の再確認を行っている。

その他、月に1度デイケア科運営委員会において医師や急性期病棟看護師、外来看護師、心理士と情報交換を行い、随時、当事者のニーズに合わせたサービス提供ができるよう取り組んでいる。

【今後の展望】

就労支援、ピアサポーター、SSTなど目的別や短期利用の参加者も増える様にプログラム内容の強化をしていく。

ピアサポーターの活動場面の拡大や雇用、イベントの企画・運営などメンバー主体の活動を徐々に増やし、自己表現の場やメンバー同士でサポートし合える場を提供していく。

メンバーが目標を達成し、卒業していけるシステム作りを地域などと連携して開拓していくと共に居場所的参加のメンバーも目標を持って参加出来る様に支援していく。

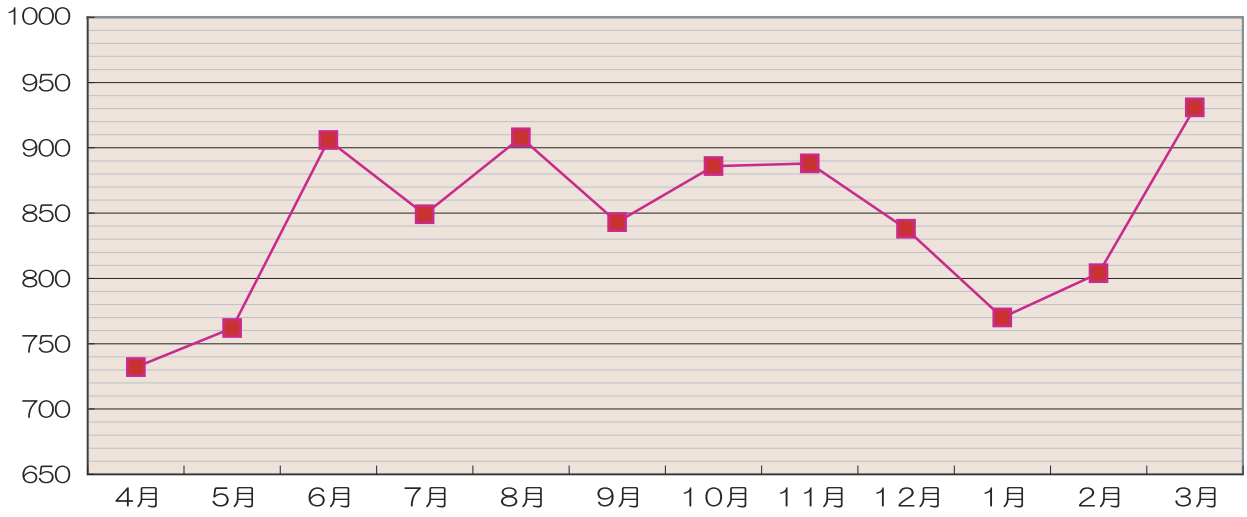
家族相談会の定期開催などメンバーと家族双方への支援ができるようにしていく。また、リスク管理を徹底しメンバーの安全に十分配慮した環境設定の中で、活動が行えるよう配慮する。

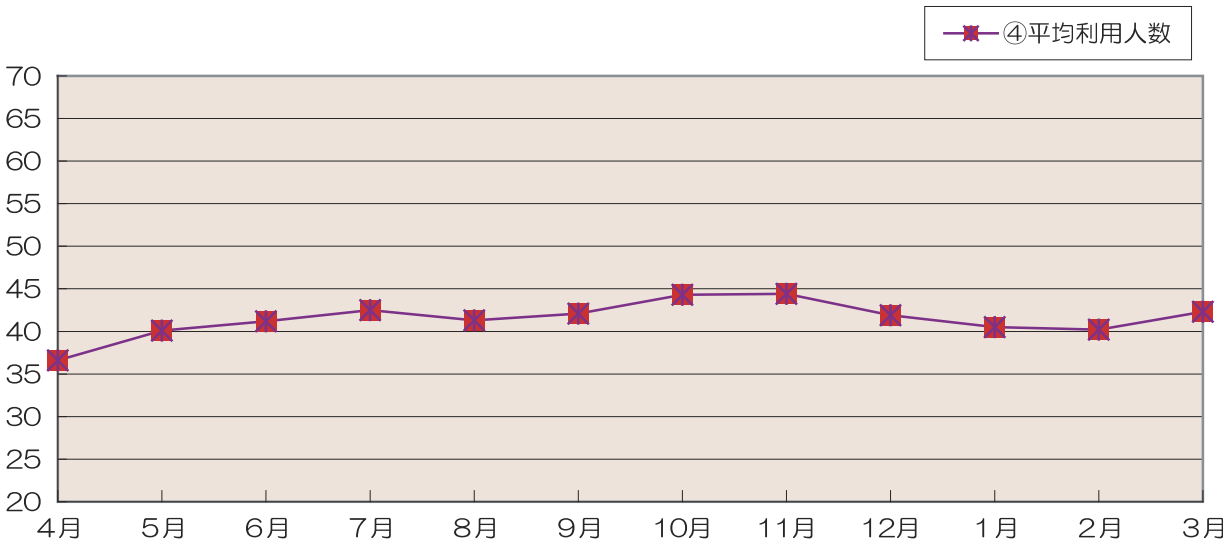
文 責　**布施江利子**

平成28年度デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① 登録人数	93	93	95	98	99	101	100	102	101	101	101	98	98.5
②延べ利用人数	732	762	906	849	908	843	886	888	838	770	804	931	843.1
内ショートケア人数	83	96	119	112	86	93	95	116	107	86	118	140	104.3
③ 稼働日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	20	22	20.3
④平均利用人数	36.6	40.1	41.2	42.5	41.3	42.1	44.3	44.4	41.9	40.5	40.2	42.3	41.5
⑤ 新規登録	4	0	2	3	1	2	4	2	0	2	1	2	1.9

延べ利用人数





作業療法科

【部署名】

作業療法科

【職員数】

11名（作業療法士10名　作業療法補助員１名）

【業務内容】

精神障がいを発病、または病状が悪化したことにより入院治療が必要となった際に心理社会療法の一環として精神科作業療法（以下；OT）を薬物療法と併用して行う。薬物療法で急性期症状が軽減した頃に、集団での人間関係の中で実際の軽作業やレクリエーションを通じてトレーニングを行い、持久力・体力・集中力・忍耐力、そして協調性を養い、社会性や生活機能を再び取り戻すリハビリテーションプログラムを行っている。また、通院者を対象にした外来OTでは外出のきっかけとしての居場所の提供や自己啓発の場としている。近年では入院患者の高齢化に伴い誤嚥や転倒の危険性も高まっているため、一部病棟では誤嚥防止対策として週６日、口腔体操を実施している。また、廃用性症候群の防止を目的に、身体リハ担当の作業療法士が専属し、精神面の他に身体面へのアプローチを重点的に行う予防対策にも取り組んでいる。他に身体拘束の指示対象者に対する深部静脈血栓症予防プログラムの立案を行い、病棟職員へ教授している。

【今後の展望】

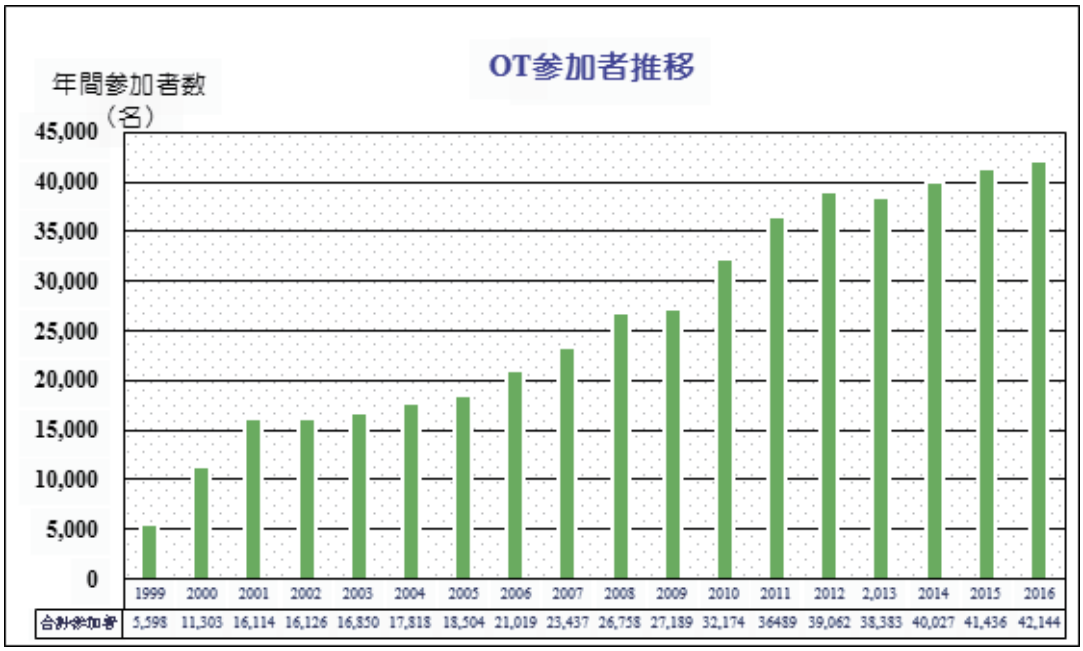
病院全体としてチーム医療を推し進めている中、より向上させる目的で病棟担当制を強化する。作業療法士の病棟での役割を増やし、現在病棟単独で行っている心理社会療法（回想法・DBT・SST・マインドフルネスなど）にも積極的に関わっていく。

作業療法科の基本方針として「安全で楽しく」を継続し、常にリスクの可能性を考え予測義務・回避義務を果たしながらも自分自身が楽しく自主的に参加しつつ効果が実感できるようなプログラムを見直し実践していく。

文 責　**細野　政昭**

【実　績】

◇OT参加者の経年推移



※平成11年5月開設以来、19年目を迎えOTの年間参加者が増加している

◇月単位の参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	3,550	3,396	4,002	3,632	3,844	3,345	3,518	3,516	3,560	3,037	3,252	3,492	42,144

◇病棟単位での参加者数

〈単位：人〉

病　　棟	救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合　　計
実　　数	4,438	9,037	10,074	11,086	7,262	41,897

◇平成28年度　外来OT参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	22	22	26	22	21	23	21	23	22	12	18	15	247

◇平成28年度　個人OT実施者数と延べ回数

〈単位：人〉

病　棟	救急病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合　計
患 者 数	8	5	4	6	2	25
延べ実数	43	35	113	39	23	253

◇身体拘束者に対する深部静脈血栓症予防プログラム提供数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	2	3	7	6	7	5	4	2	2	4	5	6	53